

平成26年3月

第1回会計事務所甲子園

平成26年2月5日東京都文京区にあるシビックセンターで第1回会計事務所甲子園が開催されました。1,800人収容できる会場に1,600人位の方に来て頂きました。収支というお金のことを除けば多くの入場者の方々に喜んで頂く、感動してもらったので大成功だったと思います。当日は大学生・専門学校生も招待したので、会計業界のすばらしさをアピールでき、よいイメージを持ってもらえるかと確信しております。

何故会計事務所甲子園をやりたいかはなりたいのか、それは誰が会社で一番大切にされたいかはなりたいかという事です。会社で一番大切にされ続けたいのは社員と家族です。その次にお客様の社員と家族です。当然ですが仕入先外注先の社員と家族も大切にしたいと思いません。会計事務所業界は、資格を持っている人しか経営者にはなりません。税理士法人の役員(一般企業では取締役)になれるのは資格者のみです。現場の仕事ができるかできないかでいえば、仕事と資格はあまり関係ありません。古田士会計で一番が出来るのは、私でもなければ、資格者でもありません。社会保険労務士の吉田事務です。お客様の評価、クレーム処理、新規開拓、商品開発等NO1です。しかし、税理士法では、有資格者でないと役員にはなりません。税金に因る受け答えをしないけません。と規定されています。違反すると罰せられます。そのため、会計事務所では税理士以外は補助者です。主役にはなりません。業界の勉強会もほとんどが税理士先生対象です。(しかし、実際に事務所の仕事を支えているのは資格のないベテラン社員と若手の社員です。彼らがこの業界に希望を持っているようにないとこの業界は衰退し続けます。ではどうして希望を持っているのか、それは働いている人々が、お客様から感謝されること、自分の成長を実感できること、自分の働いている会社の未来が明るくなること。では無いでしょうか。この3つは税法の勉強会にはありません。会計事務所の経営にあります。経営というと社員の数とか売上とかで比較されますが、拡大のみを追求してお客様と社員の幸せを犠牲にしている会社はいっぱいあります。私達はそういう基準ではなく、お客様に寄り添い、お客様を大切にしている事務所、社員を大切に、社員満足度の高い事務所に発表してもらい、観客に会計事務所の先生と社員がなってもらい、会計事務所経営の理想の姿に近づき先生と社員で共に学び共に成長し、共に元気にあり、元気な社員がお客様を元気にして日本を元気にするということを目的としています。

会計事務所甲子園は多くの会計事務所の先生と社員の協力によって実現しました。しかし一番大変な思いをして苦勞し成功させたのは飯島部長と遠藤サブリーダーです。飯島部長は実行委員長として多くの人、会社に協力を求めましたが理解されず、人も金も集まりず、テーマにも苦勞し、飯島部長がいなかったら会計事務所甲子園自体が開催できなかったと思います。遠藤サブリーダーは事務局長として運営に大きな役割をはたしてくれました。そして当日の裏方は古田士会計の社員120名が任切りしました。全てボランティアです。社員の統率がとてよくとれていると多くの人からほめて頂きました。世の中に私達以上にすばらしいことをやっている会計事務所がたくさんあることに全社員が気づき、ファイトもゆきました。(しかし古田士会計は3年間は裏方に徹し、発表する側ではなく、支える側でやります。今年目には収支も含め、全会計人で支える側に回り、うちの社員が発表し、優勝をイメージしています。

優勝している

古田士 満